

中・高生も参加して、地域で子どもを育む

## 「大田わんぱく遊び隊」

大田市立中央公民館

### 1. 大田市立中央公民館の概要

豊かな自然に恵まれた地域に起こりがちな人口減少と少子高齢化。島根の県庁所在地松江市と比較すると、面積は約 1.5 倍に及ぶが人口は 1/5 強である。高齢化率は今年度 33% の大台を超えた。そのような状況の中広い市域に散在する集落の人々の生活に直結して拠点になっているのが公民館である。大田市には 25 の公民館があり、それぞれの地域性や歴史に根づいた公民館活動を展開してきた。

我が公民館もその一つで、市の中心部にあつて中央公民館であるとともに“まちの公民館”である。学習会、趣味の会など定期的に活動するする 70 を超えるグループ、また各種市民団体の会合にフル回転の状況である。伝統として受け継がれ、親しまれてきた多くの講座もある。

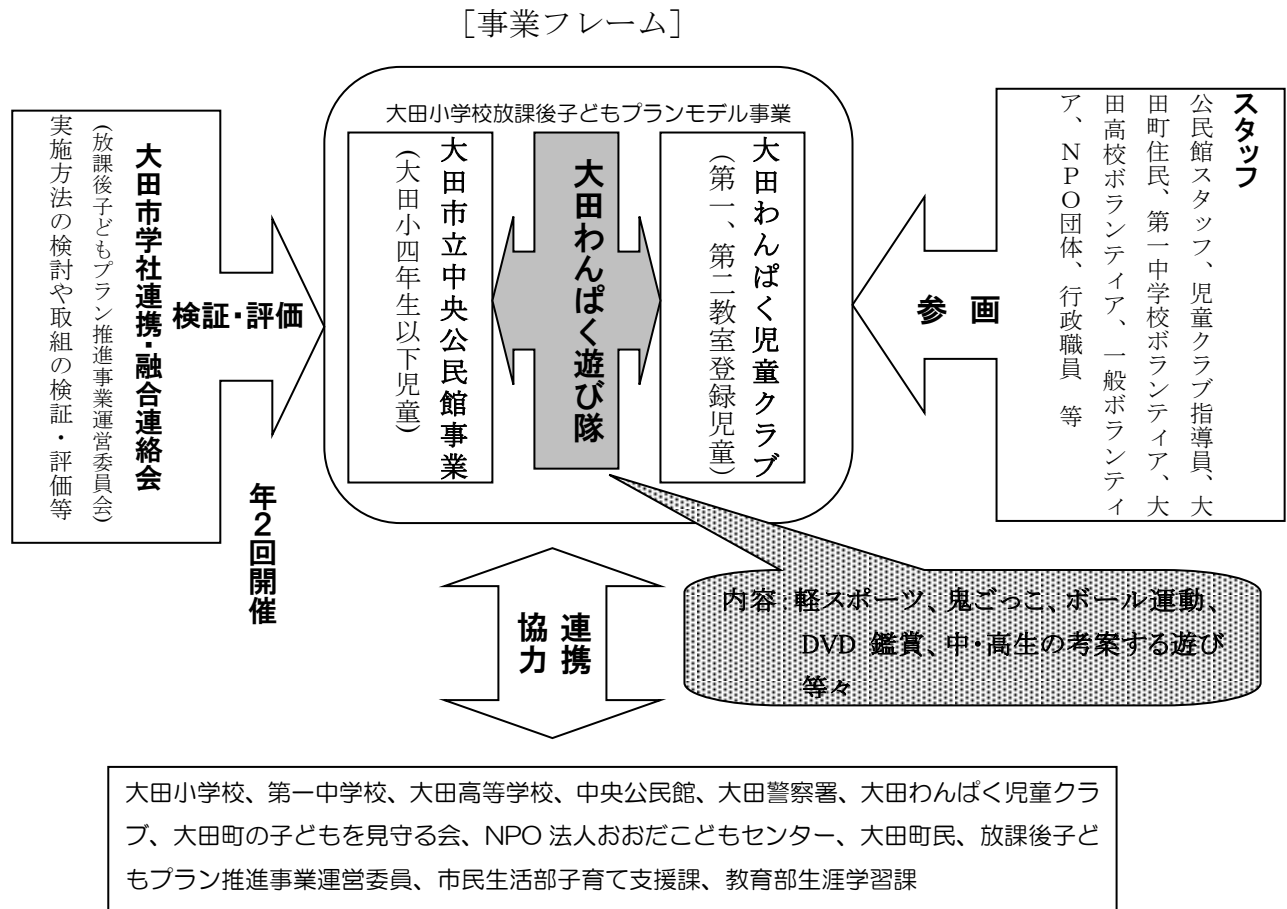
### 2. 事業の概要

#### (1) はじめに

当館の周辺には、500 人規模の小学校と 480 人規模の中学校、県立高校があり、市内の中で児童・生徒数の圧倒的に多い地域である。地域の活性化などを考えると、若い層を巻き込んだ学習活動が課題になってきた。そこで地域の課題解決のきっかけとするために以下の事業を「地域力」醸成プログラムとして企画した。

- ① 実証事業名 大田小学校放課後子どもプラン「大田わんぱく遊び隊」
- ② 実証事業のテーマ 地域住民を巻き込んだ放課後子ども支援の展開
- ③ 実証事業のねらい
  - 社会総がかりで子どもたちの育ちを支える気運の醸成と仕組み作りのために、大田小学校放課後子どもプランのモデル事業を開催し、本事業の在り方や放課後の過ごし方の検証・評価をする。
  - 公民館スタッフ、児童クラブ指導員、地域住民、地元中高生ボランティア等の多様な人材を巻き込んだ異校種・異世代交流での放課後子どもプランの展開を図る。
  - 子どもを巻き込んで地域を活性化させ、地域で子どもを育てるという視点を加えることで、伝統的な講座や行事を充実させ、幅広い年代層の参加を促していく。地域で放課後の子どもの遊びの時間や、空間を設けることで地域において子ども達を育む気運や土壌を構築する。

(2) 具体的な取組（内容、活動状況 等）



- ① 大田小学校併設の放課後児童クラブである「大田わんぱく児童クラブ」登録児童と登録外の1年生から4年生までの希望児童を対象に活動した。(全13回 登録児童数63名。参加延べ人数約500名)
  - ア 戸外活動 軽スポーツ (スナッグゴルフ、ドッチボール、縄跳び運動)
  - イ 体育館 レクリエーション、鬼ごっこ
  - ウ 室内活動 絵本の読み聞かせ、DVDアニメ鑑賞
- ② 毎月第2水曜日の放課後 (大田高校スタッフ8名)、第3火曜日の放課後 (中学生スタッフ12名) にボランティアが大田小学校に集まり、子どもたちの外遊びを支援した。(全13回 参加延べ人数約90名)
- ③ 軽スポーツ (スナッグゴルフ) については、大田市で立ち上がった総合型地域スポーツクラブ「銀ギン gin スポーツクラブ」の指導者が協力した。



大田高校ボランティアスタッフの参画  
(スナッグゴルフ)



第一中ボランティアスタッフの参画  
(スナッグゴルフ)



「銀ギン gin スポーツクラブ」の指導者  
から指導を受ける大田高生スタッフ



縄跳び遊びを支援する第一中生

### 3. 事業の成果と課題

- (1) 中学生 12 名、高校生 8 名のボランティアスタッフの募集があり、小中高の異学年、異世代での連携・交流が達成できた。また中・高生育成の観点からも、ボランティアに対する意識の向上が見られた。また、本事業のみならず大田中央公民館主催事業のスタッフや市子ども会交流会のスタッフとして意欲的に参加した。
- (2) 中学校、高校の理解と協力を得たわけだが、小学生の放課後支援に中・高生の参加が十分可能であることが分かった。
- (3) 児童の一部に参加のばらつきがあったものの、非常に楽しんで参加していた。
- (4) 保護者アンケートには「街中で中高生が子どもに気さくに声をかけてくれ、その光景がとても微笑ましく、中高との交流が出来ていると感じた。」「子どもは毎回お知らせプリントが届くことを楽しみにしていた。大人スタッフの話の家でよくしてくれ

- た。」という回答があり、保護者に本事業の趣旨が浸透し確かな手応えを感じている。
- (5) 中・高生アンケートには「この経験を生かし、また積極的にこれからも地域のボランティア活動に参加できたらいいなあと思っています。」と回答した生徒がおり、成就感や達成感を感じたようである。
  - (6) 中・高生スタッフは毎回積極的に参加したが、彼ら独自の考えた遊びの場をなかなか提供できなかつた。
  - (7) 多くの児童に対応するには、多くのスタッフが求められる。保護者からも募ることを検討したい。
  - (8) 学校外での遊びも考えていたが、移動等に時間がかかり安全面を考えるとなかなか実行に移すことが出来なかつた。

#### 4. 今後の方向性

この度の第一の目標であった中・高生のボランティアスタッフについては思ったより参加が多く大変喜んでいる。スタッフについては、ボランティアカードを作成し参加時には認印を押している。今年度の活動終了時に地域でのボランティア活動に携わっていることを生徒一人一人の所見としてまとめ、それを各校へ報告した。

ボランティアスタッフについては、地域に帰った時この活動を通して養ってきた経験が発揮できればと思っている。参加児童の保護者へのアンケートから、「参加してよかった。来年も参加したい。」との感想が多く公民館として、次年度も続けていくよう考えている。